



THE Y'S MEN'S CLUB OF AIZU
会津ワイズメンズクラブ
CHARTERED ON FEB. 1993



2020～2021 年度主題

国際会長	Jacob Kristensen (Denmark)	「価値観、エクステンション、リーダーシップ」
アジア地域会長	David Lua (Singapore)	「変化をもたらそう」
東日本区 理事	板村 哲也 (東京武蔵野多摩)	「変化をたのしもう！」
北 東 部 部長	南澤 一右 (仙台青葉城)	「変化を楽しみながら新生北東部を創ろう！」
会津クラブ会長	青山 孝男	「変わらずに歩んで、がんばっぺ！」

<No.299 会津通信>
2020年9月8日発行

会 長	青山孝男
副会長	高橋真美
書 記	高橋真人
会 計	高橋真人

◇9月の聖句 ◇

「あなたを訴えて下着を取ろうとする者には、上着を取らせなさい。だれかが、1ミリオンのように強いなら、一緒に2ミليون行きなさい。求める者には与えなさい。あなたから借りようとする者に、背を向けてはならない。

マタイ福音書5章 40～42 節

9月例会

日時:2020年9月8日(火)19:00～21:00

場所:若松栄町教会

司会:高橋 カ メン

- 1.開会点鐘 会 長
- 2.ワイズソング 一 同
- 3.会長挨拶 会 長
- 4.連絡報告
- 5.聖句朗読 高橋 カ メン
- 6.食前感謝
- 7.歓 談 ユース、切手整理

8. Happy Birthday! Happy Anniversary!

9.閉会点鐘 会 長

<8月例会出席状況>

在籍者 5名 ゲスト0名

出席者 5名

*例会出席率 100%

あかべこ 5,000円

20-21年度合計 10,000円

《例会》

毎月第2火曜日 19:00～21:00

若松栄町教会 (☎0242-27-3944)

新型コロナ禍のときに生きて

高橋 真美ウイメン



去る2月27日、突然、小中学校、高校の一斉休校の要請をテレビが報じた。その瞬間、私は小学生の頃に味わったなんとも表現し難い異様な空気に包まれていた。私は不思議な気がしていた。あれからもう80年近くも経っているのに、私の体にいまだに残っているこの感覚。あれは日本からのラジオ放送が流れたときの大人たちの高揚した会話、使用人だった中国人たちのざわめきの中で、この私にとって心地よい今の生活が何処かに消えていく様なえも言われぬ不安な思いであった。

しかし、今の私はあの時の少女の不安な思いに重ねて、今回のこの突然の一方的な要請の報道を、私は私たちの生活が戦時下に入ったと受け止めた。

一斉休校の理由が「こどもたちのいのちを守るため」だとすれば、各自治体に科学的根拠を説明し、政府の意向を伝え、教育関係者たちがそれぞれの地域の状況に合わせて作業を進められるくらいの配慮は必要ではなかったか。私にとってこの突然の要請はあの開戦時の「戦闘態

強い義務感を持つ 義務はすべての権利に伴う

勢に入れり」の雰囲気そのままに思えた。そして、その時から言葉の乱発が始まったと私は思う。ひとつひとつの言葉に右往左往したり、意味不明でありながら異常な空気に戸惑ったり、改めて言葉の威力や危険さを思い知らされたこの数ヶ月であった。

国際日本文化研究センターの大塚英志教授の、「銃後ごっこ」から抜けだせ(毎日新聞)で「疫病と戦争は違うはずなのに、『非常時』『有事』などの比喻を使った瞬間、戦争を構成していた言葉や思考に私たちはからめ捕られてしまう。」と注意を促している。

ひとつの短歌を紹介しよう。

「マスクしているせいじゃない していない人がいないせい 息苦しさは」

この短歌の選者は、物理的な息苦しさが精神的なものに転換する瞬間を捉えている。一色に染められる薄気味悪さが伝わっていると評している。

言葉と同じくらい、いやそれ以上に恐ろしいのがこの「空気」だと思う。

なにも考えないで生活しているとその時の空気に吞まれていく。ある人はそれを「全体空気拘束主義」と言う。

何のために「自粛」しているのか、何のためにマスクをしているのか、まず、何か変だなと感じたら立ち止まって考えること。そして声を上げること。世の中に流れている情報を鵜呑みにしないこと。等々。その時の空気に左右されないで生きていくことの大変さを体験しつつ大人になっていきたいと残り僅かな人生を生きていきたい。(次号は高橋真人メン)

理事通信



理事メッセージ

東日本区理事 板村 哲也
(東京武蔵野多摩)

コロナ禍と酷暑、Go To 自粛等で巣ごもりを強いられる昨今ですが皆さまいかがお過ごしでしょうか。

お見舞い申し上げます。新型コロナウイルスの感染は下火になっても完全に無くなることはなく、ウイルスとの共存の時代になると言われています。また、新型コロナウイルスを制御できるようになれば世の中が元に戻るかというところではなく、今回の危機を乗り越えること

でニューノーマル(新常态)な世の中ができると言われて います。これは過去の歴史を見ても納得できることと思います。区の様況ですが、Zoom によるリモート会議が定着し、各種会議は例年と同じように、むしろ例年以上に頻繁・活発に開催され、業務処理がなされています。

例会やその他行事は Zoom での開催のほか、コロナの感染防止に創意工夫をこらし、多大の注意を払って対面での実施も一部行われています。今年9月～10月には東日本区5部の部大会が何らかの方法で開催される予定となっています。何時になるかわからない新型コロナの終息まで無期限に、無条件に活動を停止するわけには行きません。活動についてはクラブや部により取り巻く環境や状況、考えが異なると思いますので、一律的なことは申し上げられません。自分に対する責任(自身の健康、生命を守ること)と社会に対する責任(ウイルスの感染を広げないこと)を十分認識して状況判断をして頂くようお願い致します。ワイズ内での感染を避けねばなりません。それ以上にワイズが社会に感染を広めることがないように、これからも最大の危機管理をしていきたいと思います。

8月15日～16日にアジア太平洋地域会議(ACM)と地域会長・役員・議員の就任式がZoomで開催され、東西日本区出身のアジア太平洋地域役員の方々と一緒に出席しました。詳しくは利根川地域書記の報告(3頁)をご覧ください。(仮)千葉ウエストクラブの国際協会加盟が国際協会承認されました。10月3日に加盟認証状伝達式が行われる予定です。

足跡

長年続けてきた会津若松市の風物詩「十日市」出店を中止するため、神明通り事務所へでかけました。メンバーの高齢化の要因もありますが、コ



ナ禍の今、潮時と判断した次第です。これからは見物

する側となりますが、楽しみたいと思っています。

★今後の予定★

★ 10月例会(EMC/E YES) ★
10月13日(火)